

「キリストの満ち満ちた身丈にまで」エペソ4：13 堀田修一 20・2・16

I 神の先行する恵み。父なる神（救いのご計画者）の愛、キリスト（救いの成就者）の恵みは、御聖霊（救いの適用者）の交わり、私達に福音が伝えられた恵み。これらの恵みがなければ、私達は、とっくに滅んでいる。いま救われ生かされている恵みを感謝します！「神は三位一体である。神には、父、子、聖霊の三つの位格がる。そして救いのわざは、これら三位格のすべてがいっしょに働かれるものである。父なる神は救いの計画を立て、子なる神はそれを実現され、聖霊なる神は、それを適用する」J・I・パッカー。父と子と聖霊は、ばらばらの三神教ではなく、恵みとまことに満ちた「一体」の偉大なお方。

II 「ついに私たちがみな、信仰の一致」。

1. 「信仰の一致」で大切な事は、信心深さの一致ではない。信心があっても一致は出来ない。大切なのは、何を信じているか。だから聖書が大切。自分勝手なキリストのイメージ、神観ではなく、66巻の聖書を読み学び、教えられ、「義」と「愛」に満ちたキリストを信じる信仰の一致、三位一体の神の一致を信じる信仰が、キリストの体である教会を建て上げる土台。

2. 「神の御子に関する知識の一致とに達し」。神の御子に関する知識とは。この知識の原語は、非常に強い言葉で、知的な知識ではなく、体験的な、完全な知識を意味する。神の御子キリストを人格的に、体験的に深く理解する事、キリストご自身を深く知り続ける事。そこに真の一致が生まれる。パウロの真の喜び、人生の目的は、キリストを深く知る、知り続ける事だった。私達はどうか？洗礼はゴールではなく、主を深く知り続ける恵みのスタート。「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのものを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあかたと思っています。それは、私にはキリストを得、…私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにもあずかることを知って、…私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです」ピリピ3：8-12。聖書は他の箇所でも「主なる神を知る」事の大切さを語っている→「むしろ神を知ることを喜ぶ」ホセア6：6。「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識（主を深く知る）において成長しなさい」Ⅱペテロ3：18。「永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたとあなたの遣わされたイエス・キリストとを知る（知り続ける）ことです」ヨハネ17：3。

主を健全に深く知り続けるには＝

- ①聖書から教理を学ぶ。
- ②聖書全体を何度も読む。
- ③主の前に静まり、主の臨在に触れ主を人格的に知る。
- ④教会員の祈りに支えられ準備され、語られる礼拝説教を通して主を知り続ける。
- ⑤毎日、ディボーションで一日分の御言葉を読み、主を知り続ける。
- ⑥御言葉を分かち合うセルグループで互いに補われ発見し合い教えられ主を深く知る。
- ⑦日常生活、試練、困難な中で真剣に主に抛り頼み、今も生きて働き支えられる主を体験的に知り続ける。罪を示され、神に立ち返り、神を深く知り続ける。そこに、主にある一致が生まれる。一致に達して行く。

Ⅲ 「成熟した大人になって」。「成熟」の原語：純粹、十分に成長した、完璧なの意。「成熟した大人」は、キリストをかしらとし、キリストの体の部分とされた私達によって構成される教会を意味する。「成熟した大人」とは、完全な頭に結びついたからだ＝主の御体である教会を意味する。Ⅰコリント12：12に「ちょうど、からだの一つでも、それらに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が

一つのからだであるように、キリストもそれと同様です」とある。この「キリスト」は、明らかに教会を意味している。神の大きな目的と計画は、かしらであるであるキリストとそのからだに結びついている特別な器官である私たち、すなわち教会がおとなとされ続ける事にあると知るべきである。これが教会の究極の目標であり、そのためにこそ、牧師、教師が主により任命される。教会が完全にされ、大人になり、十分に成長し、成熟する日がやって来る。しかし、まだどの教会もその途上である。しかし、成熟し続ける。この事を別の言葉で「キリストの満ち満ちた身たけにまで達するため」と言われる。「身たけ」とは、子供が成長して、だんだん成人となって行く事が考えられている。完全な大人は、常に完全なかしらであるキリストご自身だけで形造られるのではない。そのからだの手足であり、一つ一つの器官である私達からもなっている。からだの器官とされた私達それぞれが、成熟し、十分に発育して行った時、はじめて、神が私達に約束されていた完全な大人に達するようになる。パウロが本当に言いたいのはこの事。そういったからだ、「大人である」教会は、その一員である私達一人一人が完全になるまで、完全な大人にならない。しかし、この事は、私達が同一であることを意味しない。つま先と指は違うし、足と手も違う。各器官はそれぞれ違う。それぞれの器官にはそれぞれの役割があり、互いに協力する。教会の素晴らしさは、画一的一致ではなく、多様性の中の一致である。教会の中では、キリストが量り与えられた賜物の量を他の人と比較してはならない。むしろ、主が自分に与えられた持ち場、役割を祈り主に尋ねる。一人一人はキリストの命に満たされる。賜物の量は同じではないが、それぞれに十分与えられている。他人との比較ではなく、それぞれの人に相應しく主が賜物を満たされている事を喜ぶ。「私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のどれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです」Ⅱコリント10：12。※このみことばを人生の土台の一つとしたい。私達は、体が動くうちに、神の恵みに感謝して喜んで奉仕をさせていただきたい。しかし、私達は皆、若い時にできた奉仕がだんだんできなくなる時が来る。神は、その事も良く知っておられる。若い時でもできる奉仕がある。それは、祈りの奉仕である。執り成しの祈りにより、世界宣教、人々の救いと教会の建て上げ、一人一人の支えと守りの為に愛をもって祈る事ができる。執り成しの祈りは最高の奉仕である。教会が完全になる、大人に達するとは、たった一人の聖徒に期待されている事ではない。すべての人に問われている。神が、教会を完全な大人に達せられる時は、からだの器官の一つも欠けず失われない。教会には必要でない人はいない。互いに協力し合うように神が置かれている。※証し。からだ全体が、見事に釣り合うようにされる。

驚くべき事実＝

- ①あなたや私が、キリストの満ち満ちた身たけを形造っている部分とされている！
- ②キリストの体、教会は、私たちがいなければ完全ではないという驚くべき事！キリストが、ご自分をへりくだらせ、従わせ、このからだに、ご自分を結び合せてくださったという自己放棄と謙遜。

Ⅳ 励まし。

- ①神は、私達一人一人を御言葉「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳（みことば）を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」（Ⅰペテロ2：2）。
- ②御聖霊「私たちはみな、…主の栄光（御性質）を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたち（御性質）に変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」（Ⅱコリリン3：18）。
- ③御訓練「霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです」（ヘブル12：10）により主の御姿（聖さと愛）に成長させ続けられる。
- ④神は、私達が霊的につなげられた主のからだなる教会全体を「キリストの満ち満ちた身たけ（主の聖さ愛）」にまで達するようにされる。感謝！※証し。